

学習課題を自分事としてとらえ、 新聞を使って課題を解決する子ども

見附市立葛巻小学校

1 学校の概要

見附市立葛巻小学校（白井敦校長、児童数453名）は、新潟県のほぼ中央に位置し、静かな田園の農村部と新しく宅地造成された市街化の進んでいる町部、合わせて26町内から形成されている。平成13年度6月に新校舎竣工式を挙行了。これを機に、地域の願いを結集した「くずまきの森」をつくり、地域住民を中心にした「くずまきの森を育てる会」も発足して学社連携の活動を進めている。



児童は、明るく素直で、言われたことはよくやる。また、清掃や奉仕活動に誠実に取り組む子が多い。学習面では、基礎・基本の確実な定着を図ると共に課題に対して主体的に取り組む構えや思考力・表現力を伸ばすことに、生活面では、節度ある生活態度や自ら考え判断し進んで人のために働く姿勢を養うことに取り組んでいる。

2 N I E実践のねらい

今年度は、N I Eの指定を受けて1年次の研究・実践である。当校の児童は、話す相手や目的を意識していることがアンケートの結果よりうかがえる。その反面、各種テストの結果からは、目的に沿った話合いをすることや、グラフや図が表す内容を捉えることに課題が見られる。普段の授業の様子からは、聞き手を意識しているものの、語彙が足りずにうまく考えを伝えられない、相手の考えを正しく把握できない、といった課題が見られる。新聞を活用し、テーマに沿った文章の書き方、文章表現を学ぶことは、児童が自分の考えを表現するための力や、他人の考えを受け取る力を伸ばすための有効な手段である。また、新聞に書かれた表やグラフを活用することで、図やグラフの活用力を伸ばすこともできると考えられる。新聞を学習の場に活用していきたい。

3 本年度実践の概要

（1）職員研修の充実

① 6月24日（月）N I E研修会 講師：木村 隆 様（新潟日報社）

新聞がどのように構成されているか、記者はどの視点で記事を書いているか、などを教えていただいた。授業に新聞を活用していく上で必要な新聞の読み方、作り方を学ぶことができた。

② 7月8日（月）NIE研修会 講師：山之内 朋子 様

（NIEアドバイザー 柏崎市立比角小学校教頭）

NIEの基礎について教えていただいた。NIEとは何か、NIEタイムの始め方、新聞づくりのポイントなどを教えていただいた。また、学年ごとに、今後の新聞を活用した授業の助言をいただいた。2学期以降のNIEの進め方の参考となった。

（２）新聞に親しむ環境づくり

①「NIEタイム」の設定

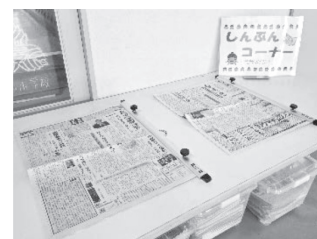
毎週水曜日の朝学習の時間を「NIEタイム」として、各学級で新聞に親しむ活動を行った。最初は、新聞紙を使った工作や新聞パズルなど、新聞に親しむ活動から始めた。その後、気になった記事を紹介し合う、記事について話し合うなどの活動を行った。

＜活動例＞

低学年	中学年	高学年
・カタカナ言葉探し ・習った漢字探し ・気に入った写真を紹介し合う。	・気に入った記事を紹介し合う。 ・子ども向けのクロスワードに取り組む。	・記事の視写 ・一つの記事について感想を交換し合う。 ・記事の見出しづくり

②新聞コーナーの設置

児童玄関ホールに新聞を自由に閲覧できる新聞コーナーを設置した。通りかかったときに興味のある記事を読んだり、ニュース紹介のための記事を探したりする児童の姿が見られた。

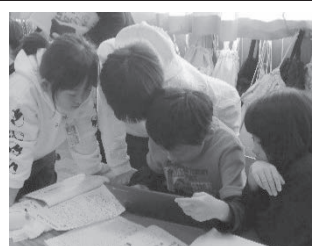


（３）授業中での新聞活用

今年度は、各学年１回、新聞を用いた授業実践を授業研究として行った。

学年	教科等	単元名等	新聞活用場面
１年	生活科	ありがとう 大好きだよ～おりひめとちえみの卒業式～	自分たちが飼育したアルパカの卒業式についての記事を読み、もし自分がインタビューされたらどう答えるか、と考えることで、アルパカに対する自分の思いを見つめた。
２年	生活科	秋の森探検で見つけたことを伝えよう	「市民の森」を散策したときの発見や気づきを新聞にまとめた。

3 年	総合的な学習の時間	伝えよう 見つけのすてきみつけ 「最強の見つけ市ガイドブック」を作ろう	見附市のガイドブックを作るために、個人テーマに合った見附市の記事を探した。
4 年	学級活動	新聞の記事を使って、クロスワードを作ろう	長岡工業高等専門学校が作成したアプリを用いてクロスワードパズルを作った。クロスワードに使う語句とヒントを新聞から選んだ。
5 年	総合的な学習の時間	和食の良さを伝えよう ～チャレンジフードフェスティバル～	学んできた和食の良さを多くの人に伝えるために新聞にまとめた。
6 年	社会科	歴史人物についての新聞を作ろう	自分が選んだ歴史上の人物について新聞にまとめて伝えた。
特別支援	生活単元学習	新聞の写真を使ってカルタ取りをしよう	新聞写真を取り札に、キャプションを読み札にしてカルタ取りを行った。



4 実践例

(1) 5 年 総合的な学習の時間

「和食の良さを伝えよう～チャレンジフードフェスティバル～」

授業者：教諭 小池 敦子 教諭 芦口 優音

① ねらい

記事の見出しについて意見交換することを通して、和食の良さを伝えるための新聞づくりへの意欲を高めることができる。

② 主な手立て

ア：主体的に課題を解決させるための課題設定

児童は、新潟日報社の木村様による出前授業や国語、NIEタイムを通して、たくさん見出しに触れ、見出しの重要性や面白さを感じている。「和食新聞」を書く活動では、先に記事を書き、自分たちも読みたくなるような見出しを作りたいという意欲が高まり、グループで話し合い、見出しを決めた。見出しを他のグループの友達に説

明したり、意見をもらったりすることで、和食の良さを伝えたいという気持ちがさらに高まると考える。

イ：本時のねらいを達成するための新聞の活用方法

自分たちの記事に見出しをつける前に、新聞記者の記事を使って、見出しを予想する活動を行った。この活動を通して、どんな見出しが読者をひきつけるのかを考えたり、見出しを見ればその記事の内容が一目で分かることを再確認したりすることができた。見出しは、自分が伝えたいことを伝えるための大事な役割を果たすことを理解し、本時の活動につながると考える。

③ 授業の実際

自分たちで作った見出しをさらによいものにするために、ワールドカフェ方式で意見交換を行った。話す相手が変わっていく方式なので、児童が当事者意識をもって主体的に活動することができた。意見交換によって、作成側では気付けない部分を客観的に言われることで、見出しを改めて考える機会になっていた。

また、見出しを考え直すことが自分たちの記事を見直すことにもつながっていた。見出しに書かれていることが記事の主になっていない、一つの記事の中に違う内容ことが書かれている、などの意見をもとに、自分たちが何を伝えたいのかを明確にすることができていた。その一方で、意見交換をする際の見直しのポイントが明確ではなかったため、アドバイスの内容が記事になっていたり、情報収集の方法になっているグループがあったりした。活動に入る前に、文字数、文末、キーワード、記事との整合性、表現などの見直しの視点を示すと、感覚で話合いが行われるのではなく、客観的な視点での話合いをすることができたと考える。

和食の良さを伝える新聞を作成するために、事前に出前授業で見出しについて学んだり、多くの新聞の見出しに触れたりしてきた。それらを通して、見出しが10～12字で作られていること、見出しを見れば新聞の内容がわかることを知り、見出しへの関心を高めることができた。



(2) 3年 総合的な学習の時間

「伝えよう 見つけのすてきみつけ

～『最強の見つけ市ガイドブック』を作ろう～

授業者：教諭 佐藤 めぐみ

① ねらい

テーマに合う記事を見付けるための話し合い活動を通して、たくさんの記事の中から自分に必要な記事を選び、ガイドブック作りへの意欲を高めることができる。

② 主な手立て

ア：主体的に課題を解決させるための課題設定

児童は、自分の興味があるテーマを決めて学習を進めてきた。すべきことが分かり自分で調べたいという思いがあるため、主体的に取り組むことができている。本時では、見附のことが書かれた新潟日報や見附新聞等を用いる。身近な地域について書かれた記事は、児童の興味を引きやすいと考える。また、たくさんの記事を用意することで、友達に必要な記事を渡したり、助言し合ったりする姿も期待できる。

イ：本時のねらいを達成するための新聞の活用方法

児童がこれまで体験したり調べたりしてきたことは、内容に偏りがある。「最強の見つけ市ガイドブック」を作るためには、自分の経験やインタビュー、インターネットで調べたことだけでは情報量が少ない。新聞記事を活用することで、今まで知らなかったことを見付けたり、自分の考えの根拠を見付けたりすることができる。

③ 授業の実際

N I Eタイムなどを通じて、児童は新聞を読む活動に多く取り組んできたこと、事前に職員作業で見附市に関する記事が載っている新聞を用意しておいたことから、児童はスムーズに記事探しをすることができた。必ず見附市について書かれた記事ある、という安心感も、集中した記事探しにつながったと考えられる。また、多くの新聞を用意しておいたことで、児童は自分の追究テーマに合った記事を実際に見付けたり、他の児童に記事を渡したりすることができた。

記事を探す前に、「最強のガイドブックにふさわしい記事は何か」を考えた。ガイドブックに載せる記事のポイント「読んだ人が見附ってすてきだと思えるような記事」「読んだ人が体験したくなるような記事」「読む人に知らせたい記事」を明確にすることで、児童は読み手を意識して記事を選ぶことができた。また、グループ内で話し合う際も、ガイドブックに載せるべき記事かどうか、ポイントを確認しながら話し合うことができた。

児童は、4月から見附市について調べたり施設見学を行ったりすることで見附市についての情報を得てきたが、新聞を読むことで、見附市で活躍する人々や他の学校の活動など、それまでの学習では知ることがで

きなかった新しい知識や視点を得ることができた。また、「見附の良さとして新聞に載せるべきかどうか。」と迷っていた内容が新聞記事になっていたことから、自分の考えに自信をもつことができた。



5 成果

新聞に触れた経験のある児童が少なく、4月に取ったアンケートでは、「新聞を読む」と回答した児童が2割程度であった。そこで、今年度は、新聞の存在を知る、新聞に目を通してみるといった、まずは新聞に親しみ、興味・関心を深めていくことを目指した。学年の実態に応じて取り組んでいくことで、新聞から興味がある分野の情報を得ようとしたり、新聞を手にとったらすぐにめくってみたりする姿が見られるようになった。

新聞を用いてカタカナや漢字、アルファベット探しなどを行うことで、自分たちが学習したことが実生活でどのように使われているのかを学ぶことができた。気になった記事を紹介する、一つの記事について話し合う、などの活動では、社会情勢に目を向ける、新しい知識を得る、といった、それまで知らなかった世界に触れるよい機会となった。また、相手が分かるように自分の考えを伝えたり相手の考えを理解したりする機会が増えたことで、対話力を伸ばすことにもつながった。

新聞活用によって児童の表現力や理解力を伸ばすことができている反面、課題も見えてきた。写真や見出しのような一目で分かる情報はどの児童も理解できたが、記事を読み、内容を把握することに関しては個人差が見られた。漢字を正しく読む、長い文章を最後まで読む、表やグラフを読むといった基礎的な学力の確実な定着を図っていく必要がある。

2年次に向けて、今年度の実践を職員で共有することで、「新聞に親しむ」から、「新聞で学ぶ」「新聞を作り発信する」を授業に取り入れていく。そのために、N I Eに関する研修を計画的に行い、長期的・計画的な視点から単元づくりを行っていけるようにする。

(阿部 怜奈)